

## 東京国立博物館

佐々木 享

## 東京国立博物館案内

「博物館めぐり」をどこから始めるか、考えあぐねた末、東京は上野公園にある東京国立博物館（東博と省略することがある。）をまずとりあげることにした。多数の国宝をふくむ収蔵品が抜群で、したがって展示も格段に充実しているなどの点で、同館を日本の博物館を代表する施設と見ることに、大方の異論はないように思われたからである。

まず、門から中を眺めると、庭が広く、景観がゆったりとしていて、落ちついた気分で観賞しようという気持ちにさせてくれる。

展示館は4棟。東洋風の屋根をいただく正面の大きな建物が本館。玄関を入ってすぐの階段をおりたところに後述のミュージアム・ショップもあるし、この本館から観賞するのが一般的ルートである。ただし、ゆっくり観ようとすると時間不足になることは間違いのないから、どこに重点をおくのか、どこを省略するのかについては、予め計画しておいた方がよい。正面に向かって右手の近代的（現代風の）建物は東洋館である。東洋といっても中国、朝鮮中心ではなく、広くオリエントの世界の古代史を彩ってきた膨大な資料群を観覧できる。楔形文字をはじめ、人類史（世界史）の足跡をみるつもりならこの館に重点を置くべきだ。そのつもりになれば、東洋館に1日かけてしまってもくいは残らないと思う。ついでにいうと、東洋館は後からできただけのことはあって観覧者に親切にできており、ところどころに休憩用のベンチがある。（他の展示館では、ないに等しい。）

正面左手の本館や東洋館にくらべるとやや

小ぶりの、明治のおもかげを残した表慶館は、日本の考古学的資料ならわざわざ東京国立博物館に行かなくても、他でも見ることができる、と思うなかれ。建物の中だから遺跡、遺構を見たいというのはムリだけれども、石器、土具をはじめ、銅鉾、銅鐸等々、日本古代史を彩る逸品の数々を先史、原史、有史と時代を追って実際にゆっくり眺めるのは壮観である。片山東熊設計の建物自体もすばらしい。日本古代史に関心をもつ人は表慶館に重点を置くべきだ。

表慶館のうしろに、法隆寺宝物館がある。日本古代史上の貴重な文化財を展覧している。ただしこの館は、空調を徹底しているうえ、収蔵物保護のため、展覧は毎週木曜日だけである。その木曜日にも雨天には閉じることがある。もし、東博に行く日が木曜日だったら、他を多少犠牲にしても、はじめにこの館に入ることをお勧めする。

さて、本館。フロアがゆったり広く、天井も高い。展示室は1、2階に分かれ、国宝、重要文化財クラスの彫刻、金工、武具、刀剣、染色、陶磁、絵画、漆工、書跡などが、これでもか、これでもかと展示されている。東博には、国宝85件、重要文化財535件をふくむ88000件のコレクションが所蔵されているという。そこで、展示品は数か月ごとに少しずつ替えられている。各室ともやや薄暗いのは、展示物を保護するために照度を下げているからである。本館に入ってゆっくり見はじめたら、たちまち1日を費やしてしまう可能性がある。

東博は、1900（明治33）年から1947年までは

皇室博物館と称し、宮内省に属していた。天皇家の資産の一部とされていたわけである。国の権威で集めた文化財、天皇家への寄付の意味をもった多数のコレクションの寄付が東博の所蔵品を豊富にしてきたわけである。

前述のように、本館に入ってすぐの地下にミュージアム・ショップがある。東博で展示している数々の文化財の図録、絵はがきをはじめ、さまざまなミュージアム・グッズ、文化史、考古学関係の書籍類を豊富にとり揃えている。僅かだがベンチも備えられているので、観覧に疲れた一時をここで過ごすこともできる。喫茶、軽食のとれる休憩所は、東洋館横の別棟になっている。

ふつう、博物館の観覧は、切符の半券に刷り込まれた簡単な案内か、入り口でくれるチラシを頼りにしてすすむ。図録をもとめるのは大抵は観覧が終わってからだ。モノを見ること自体が目的だからそれでいいのだけれども、東博のように規模が大きい場合は、やはり事前にもう少し丁寧な案内があった方がよいように思われる。こういう点では、新潮社の『こんなに面白い東京国立博物館』（1500円）は手頃で参考になる。

## 美術館、動物園も博物館である

### —博物館の種類

筆者はさきに、東京国立博物館は「日本の博物館を代表する施設」と書いた。これには多少の異論があるかもしれない。吉羽和夫『博物館の博物史』（1980年、刊々堂出版社）は、わが国の博物館を107か所も紹介しているのにそのなかに東博はふくまれていない。目的によって選び方が違ってくるからであろう。また、博物館には種々な種類がある

表 種類別博物館数

区分	計	総合 博物館	科学 博物館	歴史 博物館	美術 博物館	野外 博物館	動物園	植物園	動植物園	水族館
	799 (737)	96 (100)	81 (83)	258 (224)	252 (223)	11 (8)	35 (35)	21 (20)	7 (8)	38 (36)
国立	28	3	8	4	2	1	-	7	-	3
公立	387	76	42	138	91	3	21	4	3	9
私立	384	17	31	116	159	7	14	10	4	26

から、元来ひとつの館で代表させること自体に無理があるともいえる。

文部省の調査（文部大臣官房調査統計企画課『社会教育調査報告書 平成2年度』1992年）によると、1990年10月1日現在、わが国にある博物館は799館（登録博物館562、博物館相当施設237）である。登録博物館とは博物館法第二章の要件を満たす施設で、教育委員会に登録している施設、博物館相当施設とは如上の要件を満たさないけれども、ほぼそれに近い施設とされている。博物館相当施設の中には素人の目には立派な博物館と見えるものが少なくない。（たとえば、東博をふくむ国立の博物館は登録博物館ではない）から、とりあえずこの違いは無視していても支障はない。

文部省はこの多数の博物館を、以下のように分類している。この分類は、館が主として収蔵、保管、展示している資料（博物館資料という）の性質で分けている。「総合博物館」とは、人文科学および自然化学に関する資料を収蔵、保管、展示している博物館をさす。都道府県立博物館は大抵これに属している。「歴史博物館」とは、「歴史及び民族に関する資料」を収蔵、保管、展示する博物館とされており、市町村立博物館に多い。以上のほかはおおむね分類名称から推測できよう。「野外博物館」は、広大な敷地に明治期の各種の由緒ある建築を多数移築保存している愛知県犬山市の博物館・明治村に代表されよう。あちこちにみられる科学館はともかくとして、美術館、動物園、植物園、水族館も博物館の一種だと知ったら、意外に思う人も多いかも知れない。

（名古屋大学）

（館）